『鄧小平氏の問題論文『総綱論』を一挙掲載　『週刊現代-1977.07.07

以後の中国の方向を決めた

問題論文一挙掲載

中嶋嶺雄
（東京外国語大学教授）

『週刊現代』一九七七年七月七日号

この論文は一九七五年十月に鄧小平前副首相が起草した政治綱領である。「総綱論――全党全国各項の工作の総綱を論ずる」というのがその表題だが、「総綱」というのは「すべてのかなめ」という意味で、華国鋒政権はすでに、この路線を歩いているという。鄧小平氏は、文化大革命で〝実権派〟として失脚、周恩来前総理の力によって奇跡の復活を果たすが、四人組を始めとする文革派に批判されて再び〝走資派〟のレッテルを貼られて失脚する。その彼が、命を賭けて書きあげた内容は迫力に満ちている。中国内部の腐敗と堕落の深刻さが告発されている。本誌は、その「総綱論」を入手した中嶋嶺雄氏に解説と訳をお願いしてこの論文の抄訳を一挙掲載する。

編集部

八〇年代への基本戦略示す

〈解説〉

昨年の春、鄧小平氏が走資派として批判されたとき、彼は「三株の毒草をつくった」といわれていた。これは、鄧小平氏が一九七五年秋に書いた三つの論文「全党全国各項の工作の総綱を論ずる」、「工業の発展を早めることに関する若干の問題」、「科学院の工作報告の大綱」を指した批判であった。

これら三つの論文は綱領的プログラムだが「資本主義を復活させ、階級闘争ではなくて唯生産力（生産第一主義）を鼓吹するものであり、とりしまり、締めつけ、押さえつけの見本」と批判され〝毒草〟とされた。

ところが、昨年十月の北京政変で四人組が失脚すると「四人組が鄧小平を故意に陥れようと、このような言葉で批判したのだ」という逆の批判が起こり『人民日報』などは「かぐわしい花」と、この論文のことを高く評価した。

スクープ

毛沢東

鄧小平氏の『総綱論』を一訳と解説

写真上は毛沢東前主席、右は鄧小平前副総理、左は「総綱論」のテキスト

'75年に執筆され 4人組から「毒草」と批判された"論文"を 世界に先がけて公表する

しかし、このいずれの段階でも、一度も全文が明らかにされたことのない幻の論文だった。

このたび私は、香港で〝地下出版〟されている鄧小平論文のテキストを入手した。ここに訳出するのは三つの鄧小平論文のうち最も重要な「総綱論」である。テキストの「編集者の前書き」をみると、これはある香港の人物が広州の親戚を訪問したときに持ち帰ったものだという。しかも、フルテキストで、これまで断片的に引用された部分と照らしあわせても完全に一致する。その意味で本物であり、信憑性の高い注目すべきものである。

この論文の中で鄧氏が指摘しているのは何よりもまず、生産を重要だと認識すべきだということである。これまで生産ということを口にすると資本主義の復活だと不当な批判をうけたことは、誤りで中国に大きな損失であったと強調している。

さらに階級闘争も批判し、「本当の敵でないのに敵をつくりあげて中国を害してきた」と力説している。そして、毛沢東氏の言葉を引用しながら安定団結が何よりも大切だとして、そのための責任体制の必要性を説いている。

政治と経済の関係でも、経済

重視を唯生産主義だというのは誤った考え方だと勇気のいる発言をしている。これはまさに一九七六年から第五次五ヵ年計画が始まるにあたっての問題提起であるといってよい。

最後に、中国を今世紀内に強固な社会主義国に築き上げなければならないと、周恩来総理の葬儀の弔辞と同じことを表明しているのである。

この総綱が論じられたのは一九七五年の十月だが、二度の失脚にもかかわらず、最近、再び鄧氏の路線が将来の中国に大きな意味を持ってきている。

▶華主席は矛盾の上に立つ

この四月、中国では「工業は大慶に学ぶ全国大会」（大慶工業会議）が開かれ、余秋里副総理が基調報告を行った。この中で余秋里副総理は「企業の整頓は非常に重要だ」と述べ、以前は「企業の整頓は資本主義の復活につながるものだ」と〝毒草〟批判していた内容をくつがえした。これは、鄧小平氏が「総綱論」の中で述べている内容と一致しており、中国の工業、農業の生産の基調となる部分はほとんど「総綱論」から出たことは確実だ。

鄧小平氏復活の有力な証言

鄧小平という人物についてはいまさらいうまでもなく中国の歴史の中で重要な役割を演じてきた。文化大革命で失脚するまで、中国共産党総書記として、第二十回ソ連共産党大会に出席してスターリン批判を目撃したし、中ソ論争の担い手だった。一九七四年に〝実権派〟路線を歩んだ彼が復活したときは、〝脱文革〟の潮流の中で注目された。

そして昨年一月、周恩来総理の追悼集会で全民衆を代表して弔辞を読んで実力がクローズアップされると、走資派批判が起こり、政治の表舞台から姿を消した。

これが華国鋒氏と鄧小平氏の関係で雌雄を決する第一ラウンドだった。第二ラウンドは四月の天安門事件である。つまり、走資派批判で鄧氏が沈むと華氏が浮上し、天安門事件で鄧氏が、党中央政治局委員会の決定によって党籍だけを残してすべての職務を追われたとき、華氏は第一副主席になったのである。昨年だけで二度にわたる地位の逆転があったのである。

この意味で「総綱論」は中国の八〇年代の基本戦略であり、毛沢東以後の基本方向を示しているものといわざるを得ない。

その後、華国鋒氏は北京政変でみずからの手で四人組を失脚させて下手人になるが、毛沢東氏も周恩来氏も、ソ連のブレジネフ氏さえ手にしていない党、政、軍の三つの大権を手中にして主席に納まる。

ところが、華国鋒氏自身は経済路線、生産路線の政策を持っておらず鄧路線に妥協せざるを得なくなった。そこで、今年の一月から鄧小平氏を「かぐわしい花」と讃えて名誉回復をはかり、「総綱」を全面的に継承することになったのである。

華氏と鄧氏はこの経緯からみて「正」と「反」の関係にあって鄧氏がすんなりと復活するには大きな矛盾に突き当たらざるを得ない。路線的には完全に復活した鄧氏の復活が公表されないのはこの不安定要素に根ざすものだろう。

しかし、私は最近「鄧小平は復活している」という有力な情報を、中国を訪れた二人の日本人から確認している。ひとつは五月初旬、李先念副総理がある日本人に「鄧小平氏は党のある重要な工作をやっています」と明言していること、もうひとつは六月に伍修権創参謀長も、同じ発言をしていることだ。

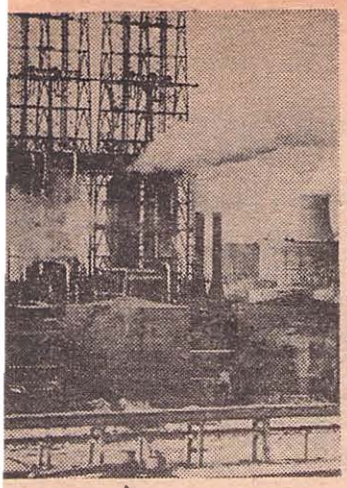
とすると鄧氏は過去の総書記という経歴からみて党の書記局で実務に当たっているとみてよいのではないか。

暮らし晴れば れ。

ムダのない心のこもった
手づくりの生活…大切ですね。
あなたのよりよい生活を願って
三井はいろいろな預金やローンなどで
きめ細かにお手伝いします。

手づくりの暮らしは
ボーナスを大きくします

三井銀行



▲大慶の精油所は中国工業のシンボル

序 今後二十五年間で社会主義建設を

党の第十期第二回中央委員会総会と第四期全国人民代表大会（一九七五年）は、毛主席の提案にしたがってわが国の今後二十五年間における国民経済発展の偉大な任務を提起した。その第一歩としては、一九八〇年までに、独立した、比較的完成された工業体系と国民経済体系を建設し、ついで今世紀内に農業・工業・国防・科学技術の現代化を全面的に実現し、わが国の国民経済が世界の前列を歩むようにすることである。

これと同時に、毛主席はプロレタリアート独裁理論の学習の指示、安定と団結の促進の指示、国民経済発展の指示を提起した。この三つの重要指示は、全党・全軍・全国の当面の各項の工作の総綱であるだけではなく、偉大な目標を実現させるために奮闘すべき今後の二十五年間の全過程での工作の総綱である。この三つの重要指示を執行することは、党の基本路線を執行し、党の社会主義建設の総路線を執行することである。

現在、国際的には、革命の要素と戦争の要素がともに増大しており、革命が戦争を制止するのでなければ、戦争が革命を引き起こすことになろう。二つの超大国は互いに争奪しあっており、世界大戦がいつかは引き起こされるであろう。ソ連修正主義の戦略の重点は欧州に置かれているが、しかし、終始わが国にたいして手を下そうと考えている。われわれは警戒心を高めて祖国を防衛し、侵入する敵を殲滅できるよう常に準備していなければならない。

プロレタリア文化大革命を経て、広範な幹部がすでに毛主席の路線、方針、政策と方法を掌握している。多くの工・鉱業企業と末端の指導権もマルクス主義者と労農大衆の手に握られていると自信をもっていうことができる。情勢はまったくすばらしく、人びとを社会主義建設にふるいたたせている。われわれは決意を固めて毛主席の三つの重要指示を全面的に貫徹執行し、社会主義建設の歩みを早め、今後二十五年間の偉大な目標を実現させ、社会主義の物質的基礎を増強しなければならない。

1 文革派は政治ペテン師だと論断!!

毛主席は、理論学習に関する指示のなかで次のように指摘している。

「レーニンがなぜブルジョア階級にたいする独裁をいったのか、この問題をはっきりさせなければならない。この問題をはっきりさせなければ修正主義に変わってしまう。全国にこのことを知らさなければならない」

プロレタリアート独裁理論を学習して修正主義に反対し、それを防ぐことは、三つの重要指示のなかでも第一の位置を占めている。

毛主席はプロレタリアート独裁に関するマルクス主義の学説にもとづき、国際共産主義運動とわが中国社会主義革命の歴史的経験を総括して、われわれの党のために社会主義の一つの基本路線を制定した。

今回の理論学習運動のなかで、多くの同志は実際と結びつけ、自己の身近な経験と結びつけて、プロレタリア階級とブルジョア階級の矛盾、社会主義と資本主義の矛盾、マルクス主義と修正主義の矛盾が、終始、社会主義のこの歴史的段階において主要な矛盾であることをより一層認識した。この主要な矛盾をしっかりとつかみ、二つの階級、二つの道、二つの路線間の闘争を堅持し、敵味方の矛盾と人民内部の矛盾を正しく区別し、処理することによってはじめて、ブルジョア階級にたいするプロレタリア階級の全面的独裁を真に実現でき、資本主義の復活を防止することができるのである。

プロレタリアート独裁という条件のもとでの階級闘争の複雑性は、党内にいるブルジョア階級の代理人が、マルクス主義の装いで、資本主義復活の陰謀活動を進めることに主としてあらわれている。まさにレーニンがのべているように、「マルクス主義の理論における勝利が、その敵にマルクス主義者のふりをさせることになったが、歴史の弁証法とはこのようなものである」といえる。

劉少奇は、わが国の社会主義三大改造が基本的に完成した後、階級闘争消滅論を宣伝して、党内のブルジョア階級の代理人となり、プロレタリア階級にたいして階級闘争を進めたが、彼は自分をマルクス主義者のように装っていた。

林彪は劉少奇の階級闘争消滅論反対の看板を掲げて、「プロレタリア独裁を徹底的に改善しなければならない」と叫び、党内のブルジョア階級の代理人として、プロレタリア階級に階級闘争をおこなったが、やはり自分をマルクス主義者として装い、しかもとくにきわだってそうであった。彼自身の言によれば、「赤旗を掲げて造反すれば、簡単

には見破られない」からである。

毛主席がみずから起こし、指導したプロレタリア文化大革命は、劉少奇と林彪の二つのブルジョア司令部を暴露し、粉砕して、彼らの反革命二面派としての仮面をはぎとった。革命的人民と革命的幹部は、この闘争のなかで、マルクス主義の本物と偽物を見分ける能力を高め、なにが偽のマルクス主義のペテン師であるかを認識した。しかし、一方では、反マルクス主義の階級敵も、彼らの失敗から教訓を汲みとり、自己をより巧妙に偽装するようになって、われわれにたいする策略をつねに研究し、「方向を推し測って、成功を求める」のである。

これらの反マルクス主義の階級敵は、林彪の衣鉢を継いで、いつもわれわれの革命スローガンを引き継ぎ、これを歪曲し、分割し、自分たちの密輸品を押しこみ、黒白を混ぜあわせ、是非を転倒している。われわれの若干の同志、若干の思想を攪乱し、若干の地方、若干の単位の党組織を攪乱し、党を分裂させ、労働者階級を分裂させ、大衆の隊列を分裂させる。

彼らは修正主義反対の旗を掲げて修正主義をおこない、復活反対の旗を掲げて復活をおこない、党の優れた幹部と先進的な模範人物を蹴落として、若干の地方と単位の指導権を奪い、これらの地方と単位でブルジョア独裁を実行している。これらの者どもの階級的基礎は、ある者はもとからの地主、富農、反動派、ごろつき、古いブルジョア分子であり、ある者は小生産者のなかから、労働者の一部、幹部の一部、党員の一部のなかから変化した新ブルジョア分子である。

彼らは内外で結びついて汚職や盗み、投機や買い占めをおこない、規律を乱し、資本主義をおこなって社会主義に気違いじみた攻撃をかけ、社会主義の生産建設を破壊し、はなはだしいときには、そこの社会主義所有制の質を変えてしまった。

派閥を組めば生産に損失だ

これらの反マルクス主義的階級敵と人民大衆とのあいだの矛盾は、敵味方の矛盾であり、また彼らと労働者階級、貧農、下層中農、革命幹部、革命的知識人とのあいだの闘争は、生死をかけた闘争である。こうした闘争は現在の二つの階級、二つの道、二つの路線の闘争の集中的な表現である。もしもこれらの階級敵をたたきつぶせず、彼らの奪い取った指導権を奪い返せなければ、プロレタリアート独裁を各末端にまで推し進める任務は完成することができない。

われわれが注意すべきことは、若干の地方、若干の単位で派閥性を頑固に発揮しているあわれな頭目どもが、生死をかけたこのプロレタリア階級とブルジョア階級間の闘争をかえりみず、この主要矛盾をかえりみないことである。彼らは、社会主義に気違いじみた攻撃をかける階級敵に何の憎しみも抱かず、社会主義の生産と建設が受ける損害に少しも心を痛めず、社会主義制度が破壊されてもなにも感じない。

彼ら自身が親分になったり、派閥間の闘いをけしかけたりすることに熱心で、いわゆるこの派とあの派との闘争、いわゆる造反派と保守派との闘争、いわゆる新幹部と老幹部との闘争、いわゆる儒家と法家との闘争に長期間かかずらわっている。ある者ははなはだしいときには、個人主義的な目的を達成するため、反マルクス主義のそれらの階級敵と野合をも辞さず、グルになっているほどである。彼らの頭にはマルクス主義はなく、毛沢東思想もなく、共産党もなく、社会主義もなく、愛国主義すらない。

いまこそ、これらの「同志」にたいし（われわれは現在まだ彼らを「同志」と呼んでいる）、危険を察して直ちに引き返すべきだと大声で叫ぶときである！彼らの前には二つの道しかない。誤りを正して良い党員となるか、そのまま堕落して反革命に成り下がるか。後者の道がたしかに存在していて、反革命分子がそこから手招きしていることを悟るべきである。

ここでわれわれが汲み取らねばならない深刻な教訓は、階級社会にあっては、社会現象のすべてにマルクス主義的階級分析を加えなければならないということである。たとえば、「造反」にたいしても、それがどの階級にたいする造反なのか、どの階級を代表しての造反なのかを見極めなければならない。「反潮流」という場合も、反マルクス主義の潮流なのか、反修正主義の潮流なのか、よく見なければならない。

われわれは、偽のマルクス主

▲一九七五年は鄧氏の活躍が目立つ。（キッシンジャー氏と）

カツラではない、直接皮フに定着する新"ハゲ解消法"

驚異のニドー人工植毛

執念の実験、実を結ぶ

とかく、ハゲ頭や薄毛で悩む人達にとってもっとも気になることは、いかに他人の目に自然に見えるか――ということではないでしょうか？

この点、このニドー人工植毛は、確かに従来の概念を完全に打ち破ったものです。

合成樹脂でつくった人工毛を直接皮フに定着させるもの。

もちろん人体には無害です。生えぎわの自然さは当然のこととして、さわっても、引っぱっても平気。洗髪、ポマードも自由です。

ご存知の通り、大勢のお客さまに人生観が変ったと喜ばれているのも、こんなところに理由があるのです。

左記へお問合せ下さい。

ニドー京葉
市川市市川一―二―七六松栄ビル
ビル4F（国電市川駅下車三分）
☎〇四七三―二一―〇二一〇

ニドー大宮
大宮市桜木町二―二七六松栄ビル
3F（国電大宮駅西口下車五分）
☎〇四八六―四四―八〇二一
（9時より5時までいずれも水曜日休み）
「ニドー相談所は、この他にも全国にあります。」

●相談は無料です●

義の政治ペテン師を見破るためには、彼らの宣言を見るだけではだめで、彼らの実際行動を見なければならない。

レーニンがのべているように「一人の人間を判断するには、彼自身のセリフ、あるいは自分についての見方によるのではなく、彼の行動に根拠を求めるべきである。哲学者を判断するには彼らの掲げている看板によるのではなく、彼らがどんな人間と仲間になっているのか、彼らが自分の学生と追随者を過去および現在、どのように導いているかによるのでなくてはならない」のである。

魯迅は「戦いいまだ終わらず、古よりの手段、絶えず用いられる」と語った。林彪は失脚したが、偽マルクス主義の政治ペテン師が林彪の手口をまたも使っているのだ。しかし、毛主席が早くから指摘しているように、「偽装して出現した反革命分子は人びとをだまして本性を隠せるかも知れない。だが、彼らは反革命をやろうとする以上、その本性を十分に、徹底して隠すことは不可能」なのである。

われわれが林彪の反革命陰謀グループと闘争した経験と教訓をしっかり記憶し、レーニンと毛主席の教えをしっかりと記憶しさえすれば、林彪一味の陰険邪悪なやり口を見破ることは容易だ。彼らの失敗は、林彪と同様に避けることができないものなのである。

2 どうやれば安定団結ができるのか

毛主席は次のようにのべている。

「プロレタリア文化大革命からもう八年たった。現在は安定が大切である。全党、全軍が団結しなければならない。われわれが理論を学び、路線をつかむには、安定と団結を促進しなければならない。一つの目標、すなわちプロレタリアート独裁の強化を各工場、農村、機関、学校にゆきわたらせるために団結しよう」

プロレタリアート独裁の第一の役割は、国家内部の反動階級、反動派と売国奴をおさえ、反党・反社会主義の新旧ブルジョア分子をおさえ、社会主義建設を破壊する者をおさえ、窃盗犯、詐欺犯、殺人放火犯、ごろつき集団と社会秩序を大きく破壊する各種の悪人どもをおさえることであり、それは国内における敵味方のあいだの矛盾を解決するためである。

プロレタリアート独裁の第二の役割は、国家外部の敵による転覆活動と可能性のある侵略を防ぐことであり、それは対外的に敵味方のあいだの矛盾を解決するためである。

この独裁の制度は、人民内部に用いることはできない。人民自身が自分にたいして独裁することはできない。人民内部の矛盾は、団結―批判―団結の公式によってのみ解決される。われわれは党の基本路線に規定されたこの全体政策を必ず守り、敵味方の境界と是と非の境界をはっきりさせ「敵にたいしては厳しくし、それを圧倒し、消滅し」「自分たちにたいし、人民にたいし、同志にたいし、上司にたいし、部下にたいしては和やかにし、団結しなければならない」（毛主席のことば）のである。

劉少奇、林彪の一味の偽マルクス主義の政治ペテン師がプロレタリアート独裁を破壊し、毛沢東思想に反対したときのもっともあくどい手口は、二つの矛盾を混同し、敵味方を転倒して敵を同志とし、同志を敵としたことであった。彼らは形は左で実質は右の修正主義路線を推し進めて、大量の幹部に打撃を与え、党内の一握りの資本主義の道を歩む実権派を保護した。

林彪も形は左で実質は右の修正主義路線を推進したが、そのやり方は劉少奇に比べより狡猾だった。彼は党の基本路線を歪曲し、プロレタリア文化大革命は「すでに革命されたものを革命する」ことだなどとデタラメをいい、闘争のホコ先を広範な革命幹部と革命大衆に向け、一時期若干の問題について大衆の見方が一致しなかったことを利用して、大衆を挑発して大衆と戦わせ、武闘を支持し、放任した。はなはだしいときには人民内部の大量の矛盾をみな敵味方の矛盾とし、さらには敵にたいする方法どころか、敵にたいして取ることが許されない方法を用いて、革命的同志に「残酷な闘争、無情な打撃」を実行した。

彼は降伏を勧め、裏切り者を受け入れて私党を結成し、反革命陰謀集団を組織した。そして反革命クーデターを実現させ、プロレタリアート独裁を覆して資本主義を復活させようと妄想したのである。

▲生産は向上しつつある

お礼の気持は
形にあらわしたいですネ

腐敗した幹部を排斥せよ

現在、プロレタリア文化大革命が始まってもう九年になるというのに、ある地方やある単位では、まだ労働者階級を分裂させ、ブルジョア階級的な派閥政治を行っているものがいる。

反マルクス主義の階級敵は、労働者階級の全体に依存しないで、彼ら自身が築いたこちらの親分、あらちの親分に依存しているのである。彼らはまた労働者階級の内部で「自分の線引き」とやらを行っている。

彼らの意見に同意した者を「隊を間違えなかった者」、「もっとも革命的な者」にして、同意しなかった者を「隊を間違えた者」、「非革命の者」とレッテルを貼るのである。また古参労働者や模範人物を「保守派」、「復活勢力」などと呼んだ。彼らは形而上学をおおいに進め、自己を全面的に肯定して自己批判をしない。他人にたいしては全面的に否定して一気に圧倒する。自分に賛成しないものはすべて「まあまあ派」だとか「中庸の道を歩む者」ときめつける。

毛主席は、大衆には「積極的なもの、中間状態のもの、比較的遅れたものの三種類の人びとがいる」とのべた。

労働者階級における人間の三分類は永遠に続くものではなく、一定の条件のもとでは相互に転換する。われわれは闘争のなかで必ず生まれる積極分子を絶えず選抜し、従来の基幹のなかで劣る分子、あるいは腐敗した分子と交替させなければならない。このようにする目的は、革命闘争と生産闘争の発展に伴う必要に適応させ、労働者階級全体の自覚程度と組織化の程度を絶えず高めるためであり、労働者階級の団結を破壊する反マルクス主義の階級敵のやり方と根本的に対立するものである。

党の団結、労働者階級の団結、全国各民族人民の団結を実現させるため、幹部政策、知識人政策、科学技術者政策、民族政策、経済政策および労働者階級内部の矛盾を解決することに関する政策を含む、党の各種の政策を必ずより一層結実させなければならない。

このようにしてはじめて、われわれは安定した団結を促進でき、全国を集中的であるとともに民主的であり、規律的であるとともに自由であり、意思が統一されていながら個人の心がのびやかで生き生きと活潑であり、社会主義革命と建設に有利な、そのような政治局面にすることができるのである。

3 政治優先、経済無視は国家の損失

プロレタリアート独裁の目的について、毛主席は、「全人民が平和に労働し、わが国を現代的工業、現代的農業、現代的科学文化を有する社会主義国家に建設するのを防衛するためである」と指摘している。

マルクス主義は、生産力と生産関係、実践と理論、経済的基礎と上部構造の各種の矛盾では、歴史発展の全体の中で一般的に生産力、実践、経済的基礎が主要な決定的役割を果たすと考えており、誰であろうとこの点を承認しないならば、唯物論者ではなくなってしまう。

しかし、一定の条件のもとでは、生産関係、理論、上部構造などの面が主要な役割を果たすことがある。これは唯物論に反するのではなくて、逆に機械的唯物論を避けて、弁証法的唯物論を堅持することである。

われわれの国家は現在まだ発展途上にある社会主義国家であり、国内にはまだ階級、階級矛盾、階級闘争が存在している歴史的段階にある。このような条件のもとでは、「政治工作はすべての経済工作の生命線である。社会経済制度に根本的な変化が発生しているときには、なおさらである」と毛主席は指摘している。政治の統帥的な役割を軽視するならば、われわれのすべての工作は邪道に陥ってしまうだろう。これは、「政治を経済と比べて首位に置かざるを得ない。これを肯定しなければ、マルクス主義の最も初歩的な常識を忘れたということである」とレーニンがいっているのと同様である。

マルクス主義理論にしたがって、われわれは劉少奇一味の政治ペテン師が宣伝した「唯生産力論」を批判した。

彼は、生産手段の所有制が社会主義化されれば、国内での主要な矛盾は、先進的な生産関係と遅れた生産力の矛盾になると考え、革命の任務にかわって、社会生産力発展の任務が第一になると結論づけた。彼の険悪な下心は、階級闘争消滅論でみなの目をふさぎ、資本主義復活を行おうとしたことである。この唯生産力論を批判することは完全に正しいことであった。

林彪一味の政治ペテン師は、表面上では劉少奇と逆のもう一つの極端に走ったかのようであるが、その実際は劉少奇と同様である。彼は政治と経済を完全に切り離し、政治の統帥的役割を歪曲して、政治ですべてを攻撃できるのだとした。

彼は、「階級闘争を終始忘れず、プロレタリアート独裁を終始忘れず、政治をきわだたせることを終始忘れない」という言葉に隠れて、ブルジョア階級の政治でプロレタリア階級の政治に突撃をかけた。彼は、プロレ

▲建国まもないころの天安門前広場

タリアート独裁に突撃をかけ、社会主義経済に突撃をかけ、国家計画に突撃をかけ、生産秩序に突撃をかけて、若干の地方と単位における社会主義の生産建設に重大な損害を与えた。

われわれは劉少奇の唯生産力論を批判するとともに、林彪のこの政治がすべてを攻撃できる

無責任な者は懲罰をうける

われわれのなかの一部には、政治と経済、革命と生産の関係に、形而上学で対処しているものがいる。彼らはつねに政治と経済を相互に切り離し、革命と生産を相互に切り離して考えている。だから彼らは、政治を論じて経済を論ぜず、革命だけを語って生産を語らない。生産を立派につかみ、経済建設を立派にやらなければならないという言葉を聞くと、すぐにその者に「唯生産力論」のレッテルを貼りつけ、修正主義を行う者だと断罪してしまう。このような観点は、根本的に地に足がついていないものである。

毛主席は、解放以前、第二次国内革命戦争の時期に、王明の「左」翼日和見主義を批判しながら、次のように書いていた。

「いままで、若干の同志は、革命戦争が非常に忙しいので、経済建設を行うヒマがないと考えていた。そのため、誰であろうと、経済建設を論ずる者を『右派』とののしろうとした。革命戦争という環境のもとでは経済建設を進めるべきではないというこの種の意見は、きわめて誤ったものである。この種の意見をもつ者は、すべてを戦争に服従させるべきだといっているが、彼らは経済建設を取り消すことが、戦争に服従させることではなくて、戦争を弱めるものであることを知らない。

経済戦線面での工作を展開し、紅色区域での経済を発展させることによってのみ、はじめて革命戦争に相当な物質的基礎を与え、われわれの軍事面での進攻を順調に展開でき、敵の〝包囲〟に強力な打撃を与えることができるのである」

苦難に満ちた革命戦争の年代でも、毛主席は経済建設工作を重視していた。

いまでも生産建設を軽視しているわれわれのなかの一部の者は、毛主席の指示に照らして自己の言行を検証すべきではないだろうか？　もしもこれでも何も感じないとすれば、彼らの孔孟の道の「観念的な人をあざむくただれた話の害毒」がいかに深いかが証明されたことにならないだろうか！　これらのただれた話の毒をきれいさっぱりと取り除くべきではなかろうか？

革命とは、すなわち生産力の解放であって、革命とはすなわち生産力の発展の促進である。われわれ中国の共産主義者は革命にたいして責任を持つとともに、生産にたいしても責任を持ち、自分たちの頭から、あの「革命をつかめば安全で、生産をつかめば危険だ」とか、「革命は重要だが、生産はそれほどではない」とか、「革命をつかめばうまくいき、生産をつかめばひどいめにあう」などの馬鹿げた観念を一掃しなければならない。

大慶の労働者は、「天と戦い、地と戦い、階級敵と戦い、誤った思想と戦おう」と立派に語り、大寨の農民も「社会主義を論ずる以上、社会主義も大いに進めよう。ただ論ずるだけでは本当に社会主義を進めたことにならない」と立派に語っているのである。われわれは革命をつかみ、生産を促した大慶と大寨の革命思想と革命的意気込みを真に学びとらなければならない。

国民経済をうまくやってゆくためには、われわれの幹部が階級闘争をやることを学ばなければならないのはもちろん、生産

蓄膿症に朝夕のむ和漢薬の効め

鼻汁がよく出たり鼻がつまる、お鼻のぐあいの悪いのは不愉快なものでひいては気分まで悪くなるというものです。
ちくのう症や鼻閉塞、鼻カタルでこんな症状におなやみの方に、お知らせしたい和漢生薬のエキスがあります。
これは、「モリ」ちくのう錠といって、漢方処方の排膿散及湯と辛夷清肺湯を基にしてこれを合方し、白朮、柴胡といった漢薬を加えて、有効成分のエキスを糖衣錠にしたものです。朝夕二回のむ用法で、鼻の通りをよくする辛夷、膿を出しタンを去る働きのある桔梗、痛みをとめいれんを鎮める芍薬、消炎・解熱・止血作用のある山栀子、解熱・鎮痛作用の柴胡といった成分生薬の働きによって、くさい鼻汁が出たり、○鼻づまり、○前頭部眉間部の頭重感というちくのう症、鼻閉塞、鼻カタルの不快な症状がよく改善されます。
ただ今、見本薬と必要な療法資料を無料でお送りしていますから、ご希望の方は今すぐハガキで大阪市アベノ区天王寺町南一漢方ビル（〒545）大杉製薬㈱鼻病W現代係へお申込みください。

蓄膿症・鼻閉塞・鼻鼻症に
見本薬進呈
「モリ」ちくのう錠

痛む！神経痛リウマチに
おしらせしたい和漢薬エキス

痛む、ハレるの神経痛やリウマチでおこまりの方、古くて新しい生薬で構成された和漢療法をご存知ですか
これは「モリ」ハイツウ錠を朝夕二回のむ療法です。この薬は和漢生薬のヨクイニン、カンゾウ、トウキ、ソウジュツ、マオウ、ケイヒ、シャクヤク、ボウイ、ブクリョウの有効エキスを抽出し、のみやすく携帯にべんりな糖衣錠にしたものです。最近では、このような古くから経験的に用いられている生薬の働きや効果が新しい科学的な方法で研究されています。
痛みをとり利尿作用のある薏苡仁、鎮痛・消炎・利尿作用の防己、鎮痛緩和、矯味の甘草、鎮痛作用のある当帰といった「モリ」ハイツウ錠の構成生薬の働きは
○体の神経にそって痛みが走る　○うずく　○ひきつる　○腕が上らない　○腰が痛む　○関節がハレる、といった神経痛リウマチの不快な症状をよく改善します。
ご希望の方はハガキで、大阪市アベノ区天王寺町南一（〒545）大杉製薬㈱神経痛W現代係へお申込み下さい。見本薬とくわしい療法資料を無代で差上げます。

神経痛・リウマチの和漢薬エキス
見本薬進呈
「モリ」ハイツウ錠

闘争と科学実験をやることも学びとり、政治も理解し、業務も理解するようにならなければならない。毛主席が「政治を問題としない傾向には必ず反対しなければならない。だが、技術も業務も分からないようではだめである」といったように、みなが若干の技術と業務を学んで玄人となり、自分を紅（思想）でもあり専（実務）でもあるようにしなければならない。紅と専の両方の道を歩まなければならない。

農業、軽工業、重工業の順序では、農業を第一位に置き、各経済部門の比例関係を調整し、総合的に均衡させ、統一ある国家計画を定めてこれを執行する。

責任制は、企業における規則制度の核心である。責任制の確立を企業管理を整頓する重要な一部とし、すべての仕事、すべての持ち場に責任を負う者がいて、すべての幹部、労働者、技術者がみな明確な職責を持つようにしなければならない。

新しい規則制度を樹立するにしても、古い規則制度を改革するにしても、みな大衆に依存し、集団の智恵を集中し、生産闘争発展の客観的法則にしたがって決定しなければならない。もしも主観的に、勝手にするならば、生産管理で誰も責任を負わない状況が生まれ、無規律、無組織、無政府状態が生まれて、必然的に客観的法則の懲罰を受けるであろう。

4 第五次五カ年計画のために整頓を

毛主席の三つの重要指示は相互に関連していて、切り離すことのできない統一された一体であり、どれ一つとして捨てることはできず、また孤立的に一つだけつかむこともできない。われわれは必ずこの三つの重要指示をカナメとして、プロレタリア文化大革命以来の豊富な経験を総括し、各項の政策で各方面の工作を指導し、各方面の工作を整頓しなければならない。今回の整頓の目的は、プロレタリア文化大革命の勝利の成果を強化し、発展させるためであり、来年から始まる第五次五ヵ年計画を迎えるためである。

三つの重要指示と各項の具体的政策を実行するカギは、各級党委員会の指導強化と各級党委員会指導グループの強化にある。これらの指導グループは「政然」ということばを先頭に置いて、敢然と指導し、敢然と闘争し、敢然と反マルクス主義の階級敵と闘争し、敢然と頑固にブルジョア階級の派閥性を発揮する頭目と闘争し、敢然と党の路線、方針、政策に違反する傾向と闘争しなければならない。マルクス主義の本物と偽物を良く識別しなければならない。

大衆から離れ、労働から離れ、役所の旦那様となり、特殊化という悪い作風を批判し、刻苦奮闘の作風、大衆と苦楽をともにする作風を発揚し、幹部が集団的生産労働に参加する制度を堅持しなければならない。

自ら尊大となり、自らをよしとして横柄にふるまい、すぐに人を叱責するような悪いくせを批判し、謙虚で慎み深く、おごりやあせりを戒める優れた作風を堅持しなければならない。ただへつらいだけを喜び、批判を喜ばないようではいけない。

現在、われわれの社会主義祖国はまさに重要な歴史的発展の時期にある。各方面での整頓工作を立派に進め、引き続き自主独立、自力更生の方針を堅持するならば、われわれは今世紀内にわが国を社会主義強国に建設するという偉大な目標を必ず実現でき、台湾を解放して祖国統一の大業を必ずなしとげられるであろう。

われわれの事業は正義のものである。正義の事業はいかなる敵といえども破ることのできないものである。〔一九七五年十月七日〕

毎回100枚の推理連載
悪しき星座
大金を横領し殺された銀行OLの悲劇！
森村誠一
ベテラン女流作家の競作
●〝芸者風子〟シリーズ
第一部・完結！〈風子の幸せ〉
平岩弓枝
芝木好子
津村節子
●力作小説●
宋義を撃つ 司馬遼太郎
石地蔵御用 笹沢左保
水子供養 水上勉
○気鋭の異色問題作！
猫ケモノ 赤江瀑
荒野の女 西村寿行
小説新潮
8月号 発売中！四二〇円